

4章 神の偉大な御計画

イエス様が市長だったら、社会で起こる全てのことを包括するような長期計画をお持ちだろうと私は想像します。そうです。神は偉大な御計画をお持ちです。この偉大な御計画とは、どの時代にあっても、世界の全ての地域にある神の教会を包み込む計画です。

世界で起こる全てのことを包括する神の御計画とはなんでしょう？神の至上目的とは何でしょう？誰に訊くか、あるいは誰から学ぶかによって、その答えは変わってくるでしょう。この章では、神の御言葉から、神の御計画の聖書的根拠を調べていきたいと思えます。

歴史を振り返るなら、キリスト教会は神が全世界に対し幅広い御計画を持っておられると信じていたことを伺い知ることが出来ます。今日では、一方に人々の魂の救い～伝道と教会開拓～のために熱心に働いている教会が数多くある反面、他方には、それとは別の数多くの教会が、人類の抱える問題、貧困、飢餓、社会正義のために精力的にその力を費やしている、という現状を私たちは目にします。このような現代の教会の中にあつて、神の御計画の全体像を知る事は困難です。

「御計画」

親愛なるボブ兄弟へ

一つだけ質問があります。あなたの言う「神の御計画 (God's Agenda)」という考えは非常に良く理解できますが、もしも「御計画(Agenda)」以外の英単語を使うとしたら、何になりますか？

主にあつて T. P. 牧師 (ブラジル)

親愛なる兄弟へ

私は「目的 (Purpose)」と言う言葉を同じように使えると思えます。また「計画 (Plan)」という言葉も用いることができると思えます。

主の御翼の影にありて ボブ・モフィット

「どうしてそんなに時間がかかったのですか？」

数年前に私は、フィリピンのミンダナオにある、イスラム教徒が多数を占める島で、同僚とともに教会リーダーたちのためのセミナーで奉仕をしていました。最終日に、セミナーを開催していた大きな教会の建物に、イスラム教の服装に身を包んだ 10 名の人々が入ってきました。彼らが椅子に座ると、場内は静まり返りました。当時ミンダナオではイスラム教徒と政府との間に小競り合いが続いており、イスラム教徒と非イスラムの人々は緊張関係にあったからです。まもなく、この 10 名は、最近キリスト教に改宗したイスラム教徒だということが分かりました。彼らはセミナー会場に向かう途中、軍隊の監視ゲートで 4 日間拘束されていたというのです。彼らは、自分たちの証をしたいと申し出ました。

クリスチャンたちは長年、彼らの暮らす集落を訪問しては福音伝道をし、福音トラクトを配布したりしていました。村人たちはそのメッセージを拒絶しました。最近になってその村に別のグループがやってきて、ただ純粋に愛をもって村人の抱える必要に仕えました。村の人々は、後になってから、その親切な人々がクリスチャンであることを知りました。その働きの影響は大きく、多くの村人が信仰に導かれました。彼らの証の最後の言葉は、今でも私の心に重く響いています。10 代の女の子がその証をしました。クリスチャンたちは長い間、たぶん彼女が生まれる前から彼女の集落で伝統的なやり方で福音伝道をしていました。しかし、愛の行為と一緒に福音が提示されたとき初めて、収穫がもたらされました。彼女は、忘れられない問いかけで証を終えました。「どうしてそんなに時間がかかったのですか？」

現代の教会の一員として、彼女の問いかけから学びましょう！神の御計画の広さと深さを理解しましょう。神の御計画は、私たちが想像しているよりはるかに大きいということを御言葉は示しています。御計画の始まり、天地創造から始めていきましょう。

創造の業に啓示された神の御計画

聖書の記述は天地創造の詳細から始まります。第 2 日目を除く全ての日に、神はご自分の創造の御業を評価され、「良かった」と神は言われました。（神が何かを「良い」と評価されるとき、それは確実に、素晴らしく良いものです！）

神は人間の表現力の限界を超えて荘厳なお方です。神は栄光に満ちておられます！神は良い方です！神は素晴らしい方です！神のなさることはすべてその素晴らしさを反映しており、神の意図は、被造物全てがその素晴らしさと神の栄光を現すことです。詩篇作者はこ

のように記しました。「天は神の栄光を物語り、大空は御手のわざを告げ知らせる。」

被造物が神の素晴らしさを反映するとき、神ご自身がそこに現されているのです。もし被造物が神の素晴らしさを現していないなら、それはつまり神の栄光をおとしめ、「神の意図が素晴らしくない」という嘘を言い広めていることとなります。人々は愛なる創造者であられる神に心惹きつけられますが、「神の意図は素晴しくないものである」という嘘によって神から離れていきます。この洞察はとても重要です！なぜならこの洞察により、神がどんなにご自分の素晴らしさ、ご栄光、御計画に対し熱烈な関心を寄せておられるかということに光が当てられるからです。

被造物は、私たちに神の栄光の驚くべき様を垣間見せてくれます。完全で聖く愛なる神は、その被造物をありとあらゆる大きさ、膨大な種類の色や質感で満たされました。神の被造物は複雑で多様です。それらは相互に関係し合いながら機能しています！それを完全には理解し、説明することは人間にはできません。数多くの星、惑星、そして地球、大気、あらゆる種類の植物と動物、そして人類からなる宇宙の生態系は、互いに作用しながらひとつの調和のある体系として機能しています。それらがあまりにもうまく機能したので、神は被造物の総合評価として、「非常に良かった」と言われました。神は明らかに、ご自分の御手の業を喜ばれました。被造物は神の栄光のみならず、その御計画をも現していました。

下の表は神の天地創造の御業とその評価のまとめです。

	創造された被造物	創世記 1 章	神の評価
第 1 日	光—昼と夜	3—5 節	良い
第 2—3 日	空、陸、海、様々な植物	8—9 節	良い
第 4 日	太陽、月、星	14—19 節	良い
第 5 日	動物	20—25 節	良い
第 6 日	人類、創造された全てのもの	26—31 節	非常に良い

神の偉大な作品の中で、「被造物の冠」である人類は、創造のクライマックスとして最後に造られました。人間を創造された後、神は全ての被造物を「非常に良い」と評価されました。神はただ人間を創ったのではなく、「ご自分のかたちとして・・・男と女に人を創造された」のです。神のために地を満たし、支配し、従える副統治者として、神は我々人間を任命なさったのです。ここで聖書が使っている「支配」という言葉は、墮落した人類にみられる自己中心的な支配の概念とは大きく異なります。イエス様の姿を見るとき、どのように地を「支配」するよう神が私たちに意図しておられるのかが分かります。その姿とは、天の栄光を捨て地上に来られ、ご自分が創造された者たちに仕え、そして命さえ惜し

まずに犠牲にされた姿です。聖書的支配の動機は利己心ではなく、奉仕と犠牲です。これは、僕（しもべ）となられた神の御性質と神のご栄光を現す支配の概念です。

残念なことに、聖書を読むと、私たちの先祖は神が意図されたようには支配しなかったようです。アダムは自分の利益に仕えることを選びました。原罪として知られるアダムの不従順によって、神と彼の関係は壊れ、さらには彼の後の全ての人類と神との関係も破壊されました。神がご自分の栄光を現すために細心の注意を払い、深い愛をもって造られた被造物に、反逆、緊張、対立、破壊、不調和、そして死が入り込みました。

エデンの園で犯された罪は、アダムとエバだけではなく被造物全体に影響を与えました。人類は今も神への反逆の渦中にあります。個人の人生、家族、社会、そして自然環境までもが、反逆によって引き起こされた結果の下でうめき苦しんでいます。使徒パウロは「被造物は虚無に服し」と記していますし、聖書には、「(神が) 地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。」とあります。アダムの不従順に対する神の応答が大きいものであったことは驚くに値しません。神はアダムの自己中心性からご自分の御計画を守っておられたのです。

契約の中に明らかにされる神のご計画

アダムの子孫たちが自己中心的な間違った支配を行ったとき、神は大洪水によってご自身の御計画を守られました。大洪水の後、神は驚くべき契約をお与えになります。神がノアに語られた契約とは、ノアの子孫だけではなく、そのほか全ての生き残った命、そして地球との間に結ばれた契約でした。この契約で「ノア、彼の息子たち、そして子孫たち」と言及されている回数と「他の命ある被造物（鳥、家畜、野生動物、すべての生き物、全ての命）」、そして「地球そのもの」と言及されている回数とを比較してみてください。全被造物に対する神の思いが明らかにされています。

神の関心は全被造物に及ぶものです。神はノアを通して明確にそのことを現されました。神の壮大な御計画は、アブラハムと結ばれた契約の中にも再び現されます。そこでは神は、全ての国々に対するご自身の思いを明らかにしておられます。

全被造物と結ばれた神の契約 (創世記 9 : 8-17)

9 節	ノアの家族とその子孫
10 節	すべての生き物、地のすべての生き物
11 節	すべて肉なるもの
12 節	あなたがた、すべての生き物
13 節	地
15 節	あなたがた、すべての肉なる生き物
16 節	すべての生き物、地上のすべての肉なるもの
17 節	地上のすべての肉なるもの

国々と神の御計画

神はアブラハムに、「地上の全ての民族はあなたによって祝福される」（創世記 12:3）と言われました。その後、神はこの契約を確かなものにされ、「地上の全ての国々は彼によって祝福される」（創世記 18:18）と約束されました。国々に対する神の御計画は、創世記から黙示録までを貫いている聖書の中で最も大切な主題です。聖書の最後の章で、天使たちは使徒ヨハネに、いのちの木の葉は、「国々の癒し」をもたらすと告げています。「国々」という言葉は聖書の中に 2,000 回以上出てきます。神はこれほどまでに深遠な関心を、国々に対して寄せておられるのです！神はまた、国々の経済的、社会的繁栄に対しても関心を持っておられることを明らかにしておられます。

第二歴代誌 6 章および 7 章に、神とソロモンの中で交わされた驚くべき対話を見ることが出来ます。ソロモンは神殿を神に捧げた際、公の祈りの中で、民の罪を告白しました。ソロモンは罪の結果が次に挙げるような幅広い社会的、経済的悲劇を国にもたらしていたことに気付いていたのです。

- 罪を犯したために敵に打ち負かされる
- 干ばつ
- 飢餓、植物の病気、昆虫の大発生
- 敵の襲撃と亡命生活
- 自然災害、疫病

ソロモンは、人々がその不従順から立ち返り、神への従順の道を歩くなら、神が彼らを憐れんでくださるようにと懇願しました。神は確かに彼の祈りを聞かれました。人々が悔い改め、従順の道を歩むなら、彼らを赦して下さい、という願いも聞いた、と神はソロモンに語られました。そして神は、かつてノアとアブラハムに啓示された御計画に基づき、「この地をいやす」とソロモンに約束されたのです！

わたしの名を呼び求めているわたしの民がみずからへりくだり、祈りをささげ、わたしの顔を慕い求め、その悪い道から立ち返るなら、わたしが親しく天から聞いて、彼らの罪を赦し、彼らの地をいやそう。第二歴代誌 7 章 14 節

ここで主が約束された「地のいやし」には、ソロモンが祈りの中で挙げている社会的、経済的な事柄～健全な社会の維持～が含まれています。地のいやしは、人々が神の御心に従うかどうかにかかっていた。神は地とそこに住む人々をいやしたいとお望みになったのです！神は全ての人々が健全に繁栄するようにと創造されました。神はご自分に似せて我々を造られました。私たちが健全に繁栄するとき、私たちは神のご性質とご栄光を現しているのです。墮落した性質ゆえに、私たちは生まれたままでは健全に繁栄できません。

私たちの直感は正しく生きることを選べないのです。神は私たちがどのように、神、人間、被造物と調和を保てば良いかを啓示する必要がありました。神が意図されたように私たちが生き、その模範によって国々を弟子とするために、神はイスラエルを「モデル国家」として選び召し出されました。神の御心に従って生きるならば人生はより優れたものになることを、イスラエルが他の諸国家に現すようにと神は願われたのです。

これを守り行いなさい。そうすれば、それは国々の民に、あなたがたの知恵と悟りを示すことになり、これらすべてのおきてを聞く彼らは、「この偉大な国民は、確かに知恵のある、悟りのある民だ」と言うであろう。申命記 4:6

イスラエルが神に従うならば、他の国々は神の輝きと栄光へと導かれるのです。神は預言者イザヤを通してイスラエルに語られました。

**見よ。あなたの知らない国民をあなたが呼び寄せると、
あなたを知らなかった国民が、
あなたのところに走って来る。
これは、あなたの神、主のため、
また、あなたを輝かせたイスラエルの聖なる方のためである。イザヤ 55:5**

旧約聖書を読むと、神の御心に対する従順と不従順のもたらす結果を、世界史という舞台上でイスラエルが上演しているかのように見ることができます。イスラエルは他の国々に創造主を指し示すモデル国家、預言者、祭司であったのです。

イスラエルは、ある意味で確かに文化的な影響を世界に与えました。正確に言うなら、神がイスラエルを取り扱われることによって、世界の文化は今日に至るまで大きな影響を受けてきています。アブラハムの時代より前の人々は、人生とは終わりのない繰り返しであると考えていました。誕生し、生き、そして死ぬ。誕生し、生き、そして死ぬ、の繰り返し。植え、耕し、そして刈り取る。植え、耕し、そして刈り取る、の繰り返し・・・という具合です。神はこの無意味な繰り返しからアブラハムを召し出されました。これまでの生き方を後にして、新しい生き方の創始者になるようにと彼を呼び出されたのです。神は彼に希望と将来の約束をお与えになりました。ひとり人間が、歴史の流れを変えるために用いられるなどということがあり得るのでしょうか？なんという出来事でしょう！神はアブラハムを通して、全世界に対し、人生には意味と目的があると示されたのです。人生は、どこかに辿り着くのです！ また、十戒も神からイスラエル民族を通して国々に与えられたもうひとつの祝福でした。それらはもともとはイスラエルに与えられましたが、十戒は今でも全世界で公正で道徳的な社会の土台となっています。

しかし、イスラエルは神に従うという点、他の国々に神を指し示すという点など、多くの点で失敗しました。他の国々へのお手本となるはずだった国が、逆に不名誉な手本になってしまいました。神はご自身の栄光を守られました。預言者エゼキエルは、神の失望を書き記しています。

それなのに、イスラエルの家は荒野でわたしに逆らい、わたしのおきてに従って歩まず、それを行えば生きることのできるそのわたしの定めをもないがしろにし、わたしの安息日をひどく汚した。だから、わたしは、荒野でわたしの憤りを彼らの上に注ぎ、彼らを絶ち滅ぼそうと考えた。エゼキエル 20:13

神はさらに続けて語られます。

それゆえ、イスラエルの家に言え。神である主はこう仰せられる。イスラエルの家よ。わたしが事を行うのは、あなたがたのためではなく、あなたがたが行った諸国の民の間であなたがたが汚した、わたしの聖なる名のためである。エゼキエル 36:22

イスラエルは神の栄光を現すことに失敗し、神は彼らを捕囚の身としました。旧約聖書の至るところに、このように神がご自身の御計画を守られる姿を見ることができます。

新約聖書からも、私たちは神が国々に寄せておられる関心を知ることができます。弟子たちに対してイエス様が最後に与えた命令は、「その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。(ルカ 24:47)」ために、福音を国々に届けなさい、というものでした。イエス様は、神にある生き方を理解し、それに従うように国々は弟子化される必要があると言われました。「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。・・・また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。(マタイ 28:19-20)」

福音～良き知らせ～が伝えられるということは、人々が単にイエス様を救い主として受け入れるだけでなく、イエス様を主と告白してそのように生きることでもあります。キリストが主であるならば、私たちはイエス様が私たちに命じた「全てのこと」に服従するのです。キリストが主となっていないならば、魂は救われているかもしれませんが、私たちの崩壊状態がいやされることはありません。生活の全ての領域でキリストを主とすることは最も大切です。それがなければ、福音は不完全であり、教会は成熟からかけ離れたものに留まります。成熟していない教会は、自らが完全に弟子となっていないので、全ての国々を弟子とするという大宣教命令を成就する力がないということになります。

旧約聖書においても新約聖書においても神はこのように「国々」のことに関心を寄せて

おられるということを見てきましたが、最後に、キリストの再臨の際にも、国々のことを語っておられます。これは驚くべき真理です！やがて来る神の王国において、国々は神の栄光を仰ぎ見、楽しみ、栄光の中で生きるのです。使徒ヨハネは、「諸国の民が、都の光によって歩み、地の王たちはその栄光を携えて都に来る。(ヨハネ黙示録 21:24)」と記しています。神は明らかに～過去においても、現在も、そして未来においても～人々だけではなく国々をもいやす御計画を持っておられるのです。

神の御計画とイエス様

私はしばしば神学校や聖書学校の学生たちに訊ねます。「イエス様は何のために十字架の上で血を流されたのだろうか？」生徒たちは異口同音に、「私たちの魂を救うためです。」と言います。

「そのとおり。」私は言います。「そうだ。でもそれ以外には、イエス様は何のために血を流されたのだろうか？」

「私たちが贖われ、私たちが死んだ後、天国に行き、永遠の命を持つようにするためです。」

「そうだね。」私は言います。「そのとおりだ。でもその他に、イエス様は何のために血を流されたのだろうか？」

彼らは、神の贖いの御計画の、霊的側面にのみ着目しています。多くの場合、彼らは答えに詰まってしまう。そこで私たちはコロサイ書 1 章を開きます。次から次へと、彼らはそこに書かれていることに驚きの声を上げます。聖書学校の学生たちに倣って、一緒にコロサイ 1:15-20 を開き、この驚くべき御言葉の中に何度「すべて」「万物」という言葉が登場するか、数えてみましょう。

御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。なぜなら、万物は御子にあって造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も権威も、すべて御子によって造られたのです。万物は、御子によって造られ、御子のために造られたのです。御子は、万物よりも先に存在し、万物は御子にあって成り立っています。また、御子はそのからだである教会のかしらです。御子は初めであり、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、ご自身がすべてのことにおいて、第一のものとなられたのです。なぜなら、神はみこころによって、満ち満ちた神の本質を御子のうちに宿らせ、その十字架の血によって平和をつくり、御子によって万物を、御子のために和解させてくださったからです。地にあるものも天にあるものも、ただ御子によって和解させてくださったのです。

コロサイ 1:15-20 (新改訳)

「万物」ということばが何回使われているのでしょうか？5回です。(英語の NIV 訳では「all すべて」が 6 回、「everything 万物」が 1 回使われています)

この御言葉の中で、こんなにも何回にもわたって、神の御計画が全ての被造物に及ぶものであることをパウロは強調しています！パウロは的を射ていました！イエス様の血潮は、万物のいやしと回復のために流されたのです。なぜでしょうか？被造物すべてが原罪によって崩壊したものとなったからです。神はご自分の被造物を愛しておられ、すべてのものをご自身と和解させたいと願っておられるのです！

イエス様は父なる神と同じ計画を持っておられます。これは驚くに値しません。聖書はイエス様を「**見えない神のかたち (コロサイ 1:15)**」「**神の本質の完全な現れ (ヘブル 1:3)**」であると言っています。キリストを見るとき、私たちは人の姿をした神を見ているのです。さらに聖書は、「**神はみこころによって、満ち満ちた神の本質を御子のうちに宿らせ、(コロサイ 1:19)**」と述べています。イエス様は神の姿であり、神の満ち満ちた様はその内側に宿っておられるので、イエス様の御計画は、御父の御計画と同じなのです。そこには、人類の霊的救済に加え、全被造物の神との和解が含まれているのです。

教会が神の大きな御計画に応答し始めるとき、素晴らしいことが起こります！しかしながら、万物を和解する働きを推し進めるように人々を整えている教会はあまり多くあるとは思えません。和解の最初の段階である霊的救済にのみ集中している多くの教会があり、一方では、霊的救済をおろそかにして、身体的、社会的変革のみに集中している別の多くの教会があります。教会は、すべての被造物をキリストの主権に下に導くという、神の御計画の全体像に仕えるよう人々を整えなければならないのです。

途方もない働きと思われるかもしれませんが。しかし神は、全ての信者を各持ち場に配置されました。結婚、家族、家事、隣人、学校、職場、事務所、農場、店、友達、サークル、社会、政府、そして自然環境などの各分野で、聖徒たちは大きな影響を及ぼすことができます。教会は、各々のメンバーがその持ち場において影響を与え、地上における神の大きな目的～万物との和解～のために神と共に働けるように人々を整え、励まさなければなりません。「万物の和解」を目指して教会が人々を訓練するなら、人々は遣わされた場をキリストの主権の下に導いて行くでしょう。ハイチで起こった次の証は、一人の人が神の御計画の全体像を理解し、自分の持ち場でそれを実践したときに一体何が起こるかということの一例です。

人里離れたところにあるドウジー村は、その日暮らしの農民たちが暮らす貧しい村です。

村人の生活は土地と気候に大きく左右され、苦しい生活を送っていました。ドウジー村には、この困難な状況に深く心を痛める教会がありました。その教会のリーダーたちは、ハイチにいる私たち（Harvest Foundation）の現地駐在スタッフを招き、その地方にある 11 の教会で訓練会をして欲しいと依頼してきました。村に辿り着くには悪路を旅する必要がありましたが、私たちのスタッフは喜んで引き受けました。その訓練は、本章で扱ったテーマ（神が被造物をどのように見ておられるか、そして被造物に対する人間の責任とは何か）から始まりました。訓練会の初日の参加者の中に、農業技術のクラスを受講した経験を持つ人がひとりいました。職業柄、土地の手入れに熟練していた彼でしたが、神が地を従え管理するように、そして人間には被造物を支配するようにと神が命じられていることを知ったとき、心の深い部分で何かが起こりました。彼は自分が単に農業の訓練を受けただけではなく、神からの命令と召しをいただいていたのだ、ということを知りました！

その時期は雨季でした。その農業技術者は、教会の会員たちが野菜畑に種を植える地域奉仕をするのを指揮しました。ところが、最初の収穫の準備が整う前に雨季が終わってしまいました。地域の生活用水を調達していた川までは遠く、岩地を隔てていましたので、農業用の水路を引くのは困難でした。「どうやって作物を育てたら良いだろう。」教会リーダーたちは頭を抱えました。その教会はドウジー村の 100 人の子どもたちのために、建物を学校として提供していました。セミナーに参加した農業技術者と教会リーダーたちは、次に雨が降るまで、生徒に協力を募り、毎朝通学するときに 1 ガロン（3.8 リットル）の水を運んでくれるように依頼しました。その作戦はうまく行きました。最初の収穫で、その小さな教会は地域の人々に 20,000 以上のトマトの苗木を無償で配布することができました。ドウジー村では種は貴重な必需品でした。まして、植えるばかりになった苗木は、大変重宝する贈り物だったにちがいありません。地域の人々、教会、学校が協力して地域の必要に仕えました。すべてはひとりの農業技術者が、地を「支配する」することの意味を理解したことから始まりました。その教会が地域の具体的な必要に仕えたことで、人々の人生に長期的で計り知れない影響を与えられました。想像してみてください。何千と言う地域教会、何百万というクリスチャンが神とともに全被造物をいやす働きに着手し、神の偉大な御計画の実行に参加したとしたら、一体どのようなことが起こるのでしょうか！

ここにもう一つの大切な教訓があります。その農業技術者は、小さな貧しい国に住んでいましたが、神の目から見たとき、それが彼の重要性と可能性を小さくするようなことはない、ということです。彼は神に似せて造られました。創造者は彼にご自身の創造性、知性、仕える心、その他の能力の一部を賦与しておられています。彼は自らが「似せて造られた」そのお方のご性質を現しています。イエス様が市長だったらされるようなことには出来るのです！

神の偉大な御計画

神の壮大な御計画を見るときに、神が創造されたすべてのものに現された神の素晴らしさと栄光が分かります。それは崩壊してしまった全被造物のいやしと回復を包括する御計画です。

- 目に見えるもの～被造物～を含みます。
- 社会～病んだ私たちの社会～を含みます。
- 霊～私たちの個人的な霊的再生～を含みます。

端的に言うと、神の御計画は万物のいやしを包含しているのです！

優先順位はあるのか？

キリストに従う者として、人類の霊的救済のために働くことが最優先事項なのでしょうか？相互に矛盾しない少なくとも3つの答えが存在すると思います。

1 霊的救いは、他のどのようないやしと回復よりも重要である。

全世界に、これより重要なことはありません。キリストによる救いなしには、私たちは神から完全に引き離されたままです。イエス様は言われました。

人は、たとえ全世界を得ても、いのちを損じたら、何の得がありません。自分のいのちを買い戻すために、人はいったい何を差し出すことができるでしょう。 マルコ 8:36-37

人々が今生きている人生と、死んだ後の永遠をどのように過ごすかがかかっているのです。キリストを信じれば、「神が下さる賜物は永遠の命（ローマ 6:23）」であり、信じない場合は、「罪から来る報酬は死です（ローマ 6:23）」。キリストを信じれば、満ち足りた豊かな人生に変えられます。またキリストを信じると「滅びることなく永遠の命を持（ヨハネ 3:16）」ちますが、信じなければ「すでに裁かれている（ヨハネ 3:18）」のです。結果は全く対照的です。

いのちはイエス様から来ます。主は弟子たちに言われました。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。（ヨハネ 14:6）」その後イエス様は御父への祈りの中で永遠の命をこう定義しています。「永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしに

なったイエス・キリストを知ることです。(ヨハネ 17:3) 永遠の命とはイエス様とその父なる神を知ることです。なんとという驚くべき特権でしょうか！

霊的救いは、天国行きの切符以上のものです。霊的救いの重要性そのものが、神のより大きな目的へと私たちの目を向けさせます。

あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。行いによるものではありません。だれも誇るためのないためです。私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。エペソ 2:8-10

2. イエス様は各々の状況に応じて人々に仕えた～御父の御心を敏感に察知して～

ルカによる福音書 5 章で中風の男を癒した事例にみられるように、イエス様はしばしば、まずその人の霊的必要に応えられました。イエス様は常に人々の霊的必要に関心を寄せられましたが、お決まりの儀式のように、必ず最初に霊的必要に応えていたわけではありませんでした。イエス様は霊的な必要に応えることなしに人々に仕えることもされました。例えば、ルカによる福音書 17 章では、イエス様は 10 人のツァラアトに罹った人をいやされましたが、帰ってきてイエス様の足元にひれ伏した 1 人のことは書いてありますが、戻って来なかった残りの 9 人の霊的必要を取り扱われたとは書いてありません。イエス様は人の心の中をご存知です。イエス様はご自分のもとに帰ってくると知っておられたその人だけをいやすことも、あるいは 10 人をいやす前に全員に霊的必要について語ることもおできになったはずです。イエス様はそのどちらもなさいませんでした。私はこう思います。イエス様はそのとき、9 人は霊的には応答しないと知りながら、肉体的にも霊的にも病人であった 10 人全員に対して神の憐れみを実行されたのです。これは働き方の「戦略」ではありません。むしろ「悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるからです。(マタイ 5:45)」父なる神のご性質そのものなのです。

その他にも、イエス様が霊的必要に応える前に身体的、社会的必要に仕えられた箇所が数多くあります。そのうちのいくつかの例を示すと、次のようなものがあります。

- イエス様はやもめの息子を生き返らせました (ルカ 7:11-17)
- イエス様は嵐を鎮められました (ルカ 8:22-25)
- イエス様は 5,000 人に食べ物を与えられました (ルカ 9:10-17)
- イエス様はベツサイダの池で病人をいやされました (ヨハネ 5:1-15)
- イエス様は水をぶどう酒に変えられました (ヨハネ 2:1-11)

3. 「仕えること」はしばしば、靈的必要に応える最も効果的な方法である。

言葉で語られた福音に対して反対する人々でも、神の愛の具体的な実践には多くの場合心を開きます。当然、イエス様もこの原則を知っておられ、御父が示してくださった人々の必要にまず応えて人々の心を開かれました。

貧しい子どもたちに仕え、また南アフリカの神学校で牧師を訓練している私の同僚の洞察を紹介します。「ほとんどのクリスチャンは魂の救済が第一だと言います。でも私は、子どもたちが食事の前に手を洗うこと、上手に歯を磨くことを初めて学ぶのを見るときにも、被造物と人間の幸福を願う超自然的な神の愛を感じるのです。」

彼女が訓練会の中で牧師たちにこのような感想を分かち合うと、ひとりが反対意見を述べました。「それは間違っています。そんなことでは開発の社会的な側面だけに応えるという極端な考えに偏ってしまう危険性をはらんでいると思います。」

彼女は答えました「でも、私たちには靈的側面だけに極端に偏ってしまって、他の必要を見ないという危険性もあります。靈的領域だけに焦点を当てるにしても、社会的領域だけに仕えるにしても、極端に偏るのは良くないことです。バランスが必要です。さもないければ、私たちは振り子のように両極端を行き来し、どこにも辿り着かなくなってしまう。」

働きに優先順位はつけられるのでしょうか？永遠の視点から見ると、優先順位は確かに存在するでしょう。靈的側面に仕える働きが最優先です。しかし実際的に考えるならば、置かれた状況によって、聖霊の語りかけに敏感に耳を傾け、示される導きによって、働きの優先順位は異なってきます。私たちが仕えている神は偉大で幅広い御計画を持っておられることを常に覚えておくことが重要です。私たちは極端から極端へ行ったり来たりを繰り返す振り子のようになり、行くべき場所を見失いたくはありません！

全てを包む神の愛

御言葉を通して、私たちは神の偉大な御計画を垣間見ることが出来ます。この御計画は崩壊した全てのもののいやしと回復とを包含するものです。それには物質的側面～被造物の贖い～が含まれますし、社会的側面～病んだ社会のいやし～が含まれますし、靈的側面～魂の救い～が含まれます。一言で言うと、万物のいやしが含まれています！原罪による崩壊の影響は全ての領域に及びました。同じように神の贖いの御計画は崩壊した全てのものに及びます。

聖書は、被造物の中で神が愛されるのは人間だけではないことを明確に語っています。神の御計画は万物をいやすことにあるのです。現在、傷ついた状態にある被造物は、いつの日かその束縛から解かれます。そしてその解放は、神の子どもたちの「栄光に輝く」贖いと共に来るのです。

私たちが良く親しんだ御言葉を、神の幅広い御計画という光に照らし合わせて読むとき、聖書全体を通して語られている神の深遠な意図を理解することができます。例を挙げさせていただきます。クリスチャンにとって、最も親しみがある次の御言葉も、新しい光をもって私たちに迫ってきます。

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。 ヨハネ 3:16

この御言葉に使われている「世」という言葉は、ギリシャ語では「kosmos」という言葉です。御言葉の中で、kosmos は「地球」あるいは「創造された世界」を意味し、また他の箇所では、「人々」をも意味します。ヨハネ 3 章 16 節の通常解釈は、イエス様を送られるほどに「神はこの世界の人々を愛され」人々がイエス様を信じ永遠の命を持てるようにして下さった、というものです。確かに、神を信じ永遠の命を持つことが出来るのは人間だけです。ですから、神は kosmos～世界の人々～を愛され、救い主をお与えになり、信じる者が神の子どもとなれるようにしていただきました。

私は、この箇所が私たちに、神が kosmos～全ての被造物～を愛されたがゆえに、その十字架の犠牲によって、全被造物が神と和解できるように、そのひとり子であるイエス様をお与えになった、ということをも教えていると信じています（コロサイ 1:20 参照）。

神の被造物のなかで人は重要な位置を占めます。その愛のゆえに、神はその kosmos（神の愛する子どもたち）に、kosmos（神の愛する被造物）をいやすという役割を託されました。私たちは愛され・いやされたので、被造物をその滅びの束縛から自由にするという役割を担うのです。使徒パウロもこれに同意しています。彼は、全ての「**被造物も、切実な思いで神の子どもたちの現れを待ち望んでいるのです（ローマ 8:19)**。」と書いています。私たちがキリストにあって成熟し、神の意図に即して管理するようになるのを、被造物は切望しています。

神は私たちがどのように生きれば良いかをご存知です。神はご自身の意志、御心、律法が天においてそうであるのと同じように、今この地上の全ての領域においても成し遂げら

れ、行われるようになることを望んでおられます。なぜでしょうか？神は私たち人間と、全ての被造物を愛しておられるからです。神は人間と被造物がご自身の御心、意図、目的が完全に達成されるほどに健全に繁栄することが出来る、ということを知っておられます。神に愛された民である私たちは、被造物の中であって、再び副統治者としての役割を遂行できるのです。私たちは神の素晴らしさと栄光を現すために、もう一度被造物の世話役となることができるのです。

ホーリスティック・ミニストリー（邦訳：全人宣教、または包括宣教）

すべてのものをいやす神の御計画に仕えることに「ホーリスティック・ミニストリー」という言葉が使われます。ここでその定義をしたいと思います。

- ホーリスティック・ミニストリーは私たちの命全体を包括する福音理解の上に築かれるものです。また御言葉と神の御計画の全体像に基づき、人間の全ての領域、そして全ての被造物に仕え、働きかけるものです。それは崩壊の逆であり、神の願いである「完全であること」(wholeness)の現れです。これらの理由により、英語で綴るとき、我々は **holistic** ではなく、「w」をつけた **wholistic** という綴りを使います。
- ホーリスティック・ミニストリーは神に目を向け、聖書の真理を適用することによって人生、教会、地域、そして国々が変革されることを目標としています。
- ホーリスティック・ミニストリーは、全人類への神の憐れみを具体化する働きです。
- それは人々の霊的、身体的、社会的、そして知的な領域の必要に仕えます。
- ホーリスティック・ミニストリーは、神を愛し隣人を愛せよというイエス様の至上命令に基づく、従順と愛のライフスタイルです。
- それは全ての地域教会と、全てのクリスチャンが果たすべき責任です。
- それは外部からの経済的支援の上に成り立ったり依存したりするのではなく、神ご自身に依存する働きです。

「Wholistic」か「Holistic」か？

- ・両方とも正しい英単語です。
- ・両方ともオックスフォード英語辞典に掲載されています。
- ・開発団体の中には「Holistic」を使うところもあります。
- ・「Wholistic」は、クリスチャンの働きを表現するのにより適しています。
- ・「Wholistic」は、福音の全体像 (Whole Gospel)、人間の全ての部分 (Whole person)、全世界 (Whole world) から成ります。
- ・「Holistic」という言葉は、しばしば聖書と調和しない働きを表現します。

この章を執筆中に、「ぼろ布に包まれた宝物」の証しがペルーから私のもとに届きました。これはホーリスティック・ミニストリーの素晴らしい実例です。

神はフランシスに、ペルーのストリート・チルドレンたちを愛する心をお与えになりました。彼らは人を襲い、恐喝したり物を盗んだりすることで生活しています。暴力と麻薬は彼らの生活の一部です。人を食べる危険な魚にちなんで、そのような子どもたちを「ピラニア」と呼ぶ人もいます。神からの重荷を与えられ、フランシスは彼らに仕えるためのセンターを設立しました。彼女は、どれほど希望がないように見えても、彼らは神に似せられて造られており、神から潜在能力を与えられていることを知っていたからです。センターでは彼らを「ピラニア」と呼ぶ代わりに、「ぼろ布に包まれた宝物」と呼びます。このセンターを始める前に、彼女は牧師にビジョンを分かち合いました。牧師は良い動機を持った人でしたが、狭い教会観しかもたない人物でした。彼は彼女に言いました。「あなたは社会的なことに関心があるようだが、それは教会の仕事ではないよ。失われた魂に伝道しないなら、それは信仰者としては何もしていないことと同じだ！」彼女は心を痛め、神から与えられた確信に従って働きを始めるためにその教会を去ることになりました。（後日、その牧師は彼女に謝罪し、今は彼女のしていることを応援しています。）フランシスは1999年に、自前のわずかなお金を元手にしてそのセンターを始めました。ある日、彼女は教会で、福音の全体像を理解するという話について話していました。すると私たちのカンファレンスに出席したことがある人が、働きを経済的に支援したいと申し出てくれたということです。彼女は言います。「その支援によって、これが神の御心であることの確信を与えられました。私たちは人の生活の全ての領域に対して働きをする必要があるのだと。」そのセンターがしたことは、まさに彼女のこの言葉通りの働きでした。ストリート・チルドレンに仕える大人たちのための訓練学校が生まれました。訓練を受けた大人たちは、定期的にストリート・チルドレンに会い、霊的なカウンセリングをし、路上生活から離れるように励ましを与えます。可能な場合には子どもたちは家族のもとに帰りましたが、多くの子どもたちはそれが出来ない状況にありました。ペルー政府から寄贈された土地にそのような子どもたちのためのホームが目下建設中です。この新センターでは子どもたちに住居、教育、霊的、心理的カウンセリング、そして聖書の価値観が提供される場となります。既にセンターは、子どもたちと地域の人々に保健と医療を提供する医療施設を建設しており、それは地域に仕えるとともに、運営のための収入源にもなっています。子どもたちはセンターが所有する土地で養鶏場とパン工場を運営しており、そこで彼らは職業倫理を学ぶと共に、そこから得られる収入は働きのために使われています。神はこれらの「ぼろ布に包まれた宝物」たちのために、センターのホーリスティック・ミニストリーを豊かに祝福してくださってきています。

神の国

神の御計画を描くのに、もう一つの重要な表現方法があります。

「**神の最重要計画は、御国の前進である。**」

イエス様は、弟子たちに「御国が来ますように、天で行われるように地でも御心が行われますように（マタイ 6:10）」と祈れと教えられました。天国においては、神の御心、律法、命令のすべてが遵守されています。地においては、神の御心は完全には行われていませんが、神の御心が行われるときに、地上において御国は前進するのです。神の国は、イエス様の最も重要な教えのひとつです。それは私たちの理解をはるかに超えて大きなものですが、少なくとも私たちが神の国について知り得ることに、以下のようなことがあります。

- 神の国は、地球とそこに生きる全てのものに対する本来の主の御心を反映している。
- 神の国は、歴史における神の贖いの働きの比喻表現である。
- 罪によって神の国は押しとどめられているが、神の計画は神の国を再建することである。
- 神の国は現在も実在している。完全な姿からはほど遠いが、実際にいやしと回復とをもたらし、今の世界に希望を与えている。
- 神の民は、やがて来るキリストによる統治を現在においても現すように召されている。私たちは神の家族の一員とされた時から、神の国に入れられているのである。
- 神の御心が実行に移される時（私たちが自ら神の御心に従って生き、人々、国々が神に従って生きるよう弟子としていくとき）神の国は前進する。
- 地域教会は、神の国の前進を実行に移す鍵をこの地上で握っている執行機関である。
- 神の国の王である方の統治に私たちが自らをゆだねるなら、私たちは他の人々にいやしをもたらす特権にあずかる。

神の国は、地上において神の御心がなされる時に前進します。ポコムチ・インディアンの間でそれは起こりました。ポコムチは、グアテマラの中でも最も貧しい部族でした。初期の宣教師たちが教会を開拓し、多くのポコムチ族がキリストを受け入れましたが、地域は絶望的な貧困に喘ぎ続けました。そこに、開発団体がやってきました。彼らは持ち込んだ莫大な資金によってプロジェクトを完成させました。結果はどうだったのでしょうか？後に残されたのは、誰にも使われることのない公共トイレと学校の建物でした！それは、お世辞にも変革と呼べるものではありませんでした。アルトゥロというペルーの若い牧師がポコムチ族の中で働きを始めました。彼はポコムチ族が聖書的な世界観を知る必要があることと、彼がそこで目にした広範囲に及ぶ崩壊をいやすためには、ホーリスティック・ミニストリーが必要であることを確信していました。彼は、本章で紹介したのと全く同じことを、読み書きが出来ないポコムチ族の牧師や信徒たちに教えました。例えば、沢山の作物を収穫出来たのに、貯蔵方法がまずかったためにネズミに食べられてしまったような

場合、アルトゥロはこのように聞きました。「みなさんとネズミの、どっちが賢いと思いませんか？」彼らは笑って、「ネズミだね。」と答えます。するとアルトゥロはこう聞きます。「みなさんがネズミを支配しているのでしょうか？それともネズミがみなさんの生活を支配しているのでしょうか？」彼らは、現時点ではネズミが彼らの生活の支配権を握っていることを認めざるを得なくなりました。そこでアルトゥロは、彼らは祝福されているひとりひとりであり、被造物を支配し、統治する権威を神から授かっているという「ものがたり」を分かち合いました。神は彼らに創造性を与えておられること、また、彼らが神に似せて造られていることなどを確信させていったのです。アルトゥロはこのようにして聖書から真理を分かち合い、彼らを励ましました。徐々に、彼らの考え方が変わり、聖書的に考えるようになっていったのです。彼らの意識が変わるにつれ、教会も変わっていきました。その教会を通して、地域は変革されていきました。子供たちは学校に行くようになり、女性たちは読み書きを学び、男たちは新しい農業技術を学び、婦人たちは作物をネズミから守れる構造の食糧貯蔵庫を開発しました。彼らは神がより良く生きるように自分たちを造ってくださったことを理解し始めました。アメリカの神学校の教授がそこを訪れました。彼は人々が神の広範囲におよぶ御計画を深く理解し、それに基づき生きることによって、生活と地域がいやされ変革されたその光景を見ました。彼は深く感動し、言いました。「ポコムチに神の国が来た！」

結 論

明らかに、神の御計画は幅広いものです！詩篇作者はこう書いています。「主はすべてのものにいつくしみ深く、そのあわれみは、造られたすべてのものの上にあります。（詩篇 145:9）」神の愛は被造物すべてを覆うものです。言うまでもなく、それは罪の中に死んでいる人々の霊的救いを含んでいるのです。しかし、個々のクリスチャンや地域教会が、霊的領域を超えたところまで関心を広げ仕えるなら、原罪によって崩壊した全てのものをご自身と和解させることが神の意図であるという良き知らせの宣言をしていることとなります。神の御計画は、キリストの再臨のときまで完成されることはありません。「あの万物の改まる（NIV 訳：restore=回復される）時まで、天にとどまっていなければなりません。（使徒 3:21）」それまでの間、教会は神に応答し、御計画の全体像を理解し、推進する必要があるのです。

神の御計画の範囲外にあるものは、何一つありません。万物が回復されるということは、全世界が変革されることです。全世界は、悪から聖められるのです。全世界は神の栄光を完全に現すよう期待されています。神の贖いの働きは、全人類、あらゆる関係、万物の管理を含み、全ての被造物を包含します。もしイエス様が市長なら、イエス様は偉大な御計画を持っておられるはずなのです！